

難民Refugees

Number

28

2004年第1号

UNHCR
ニュース

United Nations
High Commissioner
for Refugees

Operation Report

コソボ

忘れられかけた 難民問題



スーダン難民のチャドへの
流出、続く



UNHCR

国連難民高等弁務官事務所

Contents

-
- Operation Report**
- 3 **コソボ
忘れられかけた
難民問題**
-
- Partnership in Action**
- 5 **アフガニスタン
北部サリプル州での活動報告**
-
- Domestic Asylum in Japan**
- 6 **より幅広い移民の移動の中での
難民の保護**
- 8 **難民法 第8回**
-
- Guest Column**
- 9 **報道する側、報道される側
元朝日新聞社編集委員 百瀬和元**
-
- Staff Profile**
- 10 **私とUNHCR 第8回**
-
- Interview**
- 11 **UNHCRフィールド安全対策官
ジョン・キャンベル**
-
- From "Refugees" Magazine**
- 12 **2003年をふりかえって
大変な世界だったが、よく活動した1年**
-
- Information**
- 14 **UNHCR執行委員会 開催
ルード・ルベルス高等弁務官、再選
書籍紹介「母さん、ぼくは生きてます」**
-
- News**
- 15 **スーダン難民、続く緊急事態
UNHCR、「人間の安全保障基金」を
通じ、ザンビアでの活動に対する拠出、
約120万米ドルを受ける**
-
- 16 **日本と庇護**
-

— 表紙写真 — 過去の記録写真から

◀メイン (モノクロ)
コソボ難民。12万人がたった2週間の間にマケドニアの国境に逃れてきた。多くは着のみ着のままで強制的に家から追い出された人々だった。1999年 UNHCR/R.LeMoyne

上 タイにあるミャンマー難民キャンプ。ここでは10万人近くが暮らしている。2004年 UNHCR/R.Hakozaki

下 チャド東部に逃れてきたスーダン難民の子どもたち。国境付近は、砂嵐や民兵による攻撃など非常に危険で、難民キャンプへの移送が急がれている。2004年 UNHCR/H.Caux



Message from the Editor

3月8日、世界60か国の代表が集まった国際会議において、200万人のアフリカ難民および大量の国内避難民の自主帰還と持続可能な再定着をめざす検討委員会の設置が承認されました。

ルード・ルベルス高等弁務官は、「委員会は、この課題に関心をもつ友人たち、アフリカ諸国やその他の政府、アフリカ連合（AU）、国連機関、NGO（非政府組織）によって構成されている」と、歓迎の意を表しました。代表団からは「これで互いの官僚主義の壁がなくなり、協力と包括的なアプローチが可能になった」、「社会・経済的な再定着は、平和プロセスにとって細心の注意を要する期間にあたる。誤ると取り返しのつかない結果を生むからだ」などの発言がなされました。

この委員会の設立によって、長期化しているアフリカの難民問題に終止符が打たれる期待が高まっています。

掲載記事の転載をご希望の方は、事前に下記のUNHCR広報室にご相談下さい。なお、転載の際には、記事の全文掲載をお願いします。

お知らせ

UNHCR駐日地域事務所はホームページを開設しています。ぜひご活用下さい。資料紹介もあり、ホームページから電子メールでのお申し込みも可能です。

<http://www.unhcr.or.jp>

資料に関するお問い合わせ先

UNHCR (ユー・エヌ・エイチ・シー・アール)
東京事務所 広報室
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70
UNハウス（国連大学ビル）6階
TEL 03-3499-2310（広報室直通）
FAX 03-3499-2273

その他のお問い合わせ先

TEL 03-3499-2011（代表）

UNHCRニュース

「難民 Refugees」No.28 2004年3月

発行人 ビルコ・コウルラ

編集 浅羽俊一郎、箱崎律香、大川宝作、野中聖子

デザイン 鈴木俊秀

制作 (株)トライ

UNHCRの援助活動は皆様のご寄付に支えられています。ご寄付は郵便振替にてお願いいたします。
口座番号 00140-6-569575
加入者名 HCR協会
(手数料加入者負担)